

# 新聞利用し エアドーム

いなべ市の石榑小学校で二十五日、名古屋大学院（名古屋）の学生九人と児童二十人が新聞を使ったエアドーム作り挑戦した。  
（蜘蛛美鶴）

## いなべ・石榑小

石榑小は三年前から週一回、地域住民が児童に昔の遊びや歌を教える「わくわくスクール」を続けており、七種類ある授業のうちの「つが学生らが担当する「いしづれ」でもデザインワークショップ」。



完成したエアドームの中で遊ぶ児童ら。いなべ市の石榑小学校で

## 名大院生講師に児童挑戦

この日は星の形に切り抜いた新聞を袋状につなげ、扇風機で空気を送り込んで五尺四方のドームを作り、児童らは歓声を上げながら中に入って遊んだ。岡沙耶花さん（六年）は「新聞だから破れると思っただけど、あんなに膨らんでびっくりした」と笑顔。

高村尚吾さん（大学院二年）は「子どもたちが喜んでくれて良かった。ものづくりの楽しさを知って建築デザインに興味を持ってもらえればうれしい」と話した。

石榑小は二〇〇四年の校舎新築の際、「地域の拠点になるような学校」を目指して設計。二階部分を学校ゾ

ーン、体育館や図書館のある一階部分を地域ゾーンとして、週末などに地域に開放しているのが特徴だ。

ワークショップは、建設委員会のメンバーだった名大学院環境学研究所の小松尚准教授が「完成した学校が地域でどう機能しているか見守りたい」と申し出て実現。ゼミの学生が講師を務め、児童とペットボトルタワー作りや段ボールを使った家作りなどに取り組んでいる。